

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 13 日現在

機関番号：73901

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2009～2013

課題番号：21241057

研究課題名(和文) アフリカ熱帯林における慣習的権利の確立と多民族共存に関する研究

研究課題名(英文) Customary rights and interethnic relationships in the African tropical rainforests

研究代表者

市川 光雄 (Ichikawa, Mitsuo)

(財)日本モンキーセンター・その他部局等・その他

研究者番号：50115789

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 35,500,000円、(間接経費) 10,650,000円

研究成果の概要(和文)：熱帯アフリカ諸国で近年改訂された森林法では、森林に対する住民の慣習的権利が言及されるようになったが、慣習的利用の実態やその認定、利害関係者との調整等については明確に定められていない。本研究では、これらの森林法の問題点を指摘するとともに、現地調査によって、森林の土地・資源の利用実態や、非木材森林産物の自給用及び現金収入源としての重要性を把握した。また、住民による森林利用の空間的、時間的分布をGPS等を使って可視化し、森林を重複利用する民族その他の社会集団間の慣習的利用状況とその相互認知を促進させ、持続的森林利用とそれをめぐる地域住民の共存体制を確立するための基礎資料を得た。

研究成果の概要(英文)：While new forest laws in central African countries refer to the people's customary rights to the forests for the first time, actual situation and recognition of customary forest use have not been clearly understood. The way to adjusting the conflicting interests among various stakeholders are not well established. This study pointed out various problems in the recently revised forest laws in central African countries. It also documented actual customary land and resource uses, based on the fieldworks in Cameroon and other countries. The importance of non-timber forest products (NTFPs) for subsistence and commercial purposes were also clarified. The spatio-temporal patterns of customary forest use are mapped and visualized by using GPS, thus facilitating the mutual understanding of forest uses by different groups of local people. In these ways, the study provided the basic data for establishing sustainable use of the forest resources.

研究分野：地域研究

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：カメルーン 熱帯雨林 非木材森林産物 持続的利用 狩猟採集民 焼畑農耕民

1. 研究開始当初の背景

近年、熱帯アフリカ諸国では森林法の改定が行われた。この改定の趣旨は、森林の保護と持続的な利用を促すことであり、そのために、森林の国家への帰属を明確にするとともに、適切な方法で伐採区画や自然保護区域、住民利用区域等のゾーニングを実施しようというものであった。この背景には、森林伐採から生まれる利益がほとんど住民の福祉に貢献することがないまま、森林破壊が加速するといった状況があった。改定された森林法はこのような商業伐採のコントロールと伐採収入が現地住民に還元されることを企図したものである。また、最近になって改訂された森林法では、森林資源に対する慣習的権利が言及されているが、森林に対する慣習的権利が実際にどの程度、どのような形で認められるか、あるいはその確立方法についてもまだ定められていないのが実情であった。

一方、近年になって、木材の供給源以外に、森林が有する新たな価値に目が向けられるようになった。すなわち、森林は、膨大な量の炭素を固定し隔離するものであり、また水源確保や土壌維持、さらには観光資源などの多種多様な環境サービス機能を果たすものであることが強調されるようになった。また、薬用、食用、物質文化などのいわゆる住民が慣習的に利用する非木材資源の供給源としての重要性に対する理解も深まっており、住民の貧困削減にとって非木材産物をもつ価値が認識されるようになった。このような認識をもとに、森林のもつ環境サービス機能と住民による非木材資源の利用を結合させたあたらしい森林保全のあり方が、地球環境維持と地域の貧困削減を共に達成する方法として検討されるようになった。

しかし問題は、「森林の慣習的利用」の実態が把握されていない点である。慣習的権利の確立のためには、現地における森林利用の実態と、森林をめぐる利害関係者の特定と調整方法等に関する詳細なケース・スタディが不可欠であるが、これらに関する情報はきわめて不十分であった。

2. 研究の目的

熱帯アフリカ諸国で近年相次いで改訂された森林法において、森林に対する住民の慣習的権利がはじめて言及されたが、慣習的利用の実態やその認知方法、利害関係者の調整方法については明確に定められていない。本研究では、近年、熱帯アフリカ諸国で制定・改訂された森林法の比較検討から、それらの特徴と問題点を明らかにするとともに、現地調査によって森林利用の実態を明らかにする。その上で、地域の住民組織を基礎にして、森林資源を重複して利用する集団間の利害関係を調整する方法について検討する。これらの作業を通して、慣習的権利の確立とその相互認知を促進させ、持続的森林利用とそれをめぐる地域住民の共存体制を確立するた

めの基礎資料を得る。

3. 研究の方法

慣習的利用の実態と権利の確立、及び森林利用をめぐる地域住民の共存に向けて、以下のような計画にしたがって研究をすすめた。

まず、慣習的権利の認知に向けて徐々に進化してきたアフリカ諸国の森林法の比較検討をおこなった。つぎに、現地調査によって慣習的利用の実態把握と、森林利用をめぐる社会関係、民族関係の把握に努めた。現地調査では、とくに「樹を伐らずに森を利用する」ことができる「非木材森林産物 (NTFPs)」の利用に焦点を当てた。さらに、これらをもとに、異なる集団間の利害調整方法について検討し、慣習的権利の確立と地域社会における多民族共存に向けた探求をおこなった。

研究方法としては、国内におけるインターネット等を含む文献資料の検討、海外研究機関における文献等資料と研究情報の収集、そして中核的な方法としてアフリカにおける現地調査を遂行した。また、国内外の学会、シンポジウム、ワークショップ等において成果の発信をおこない、現地からのフィードバックをも得るように努めた。

現地調査は主として中央アフリカのカメルーンにおいて実施したが、この地域では現在、熱帯雨林の大規模伐採と自然保護計画が同時に進行し、住民がそれらの板挟みにあっている。熱帯雨林における生態学及び人類学的研究に詳しい現地研究者や、GPS を用いた participatory mapping (参加型の土地・資源利用図作成) を先駆的に進めてきた海外共同研究者を加え、研究会や現地調査を通して最新の研究情報の交換や成果をめぐる意見交換にもつとめた。なお、現地調査や研究会にあたっては、連携研究者や研究協力者 (大学院生等) の積極的な参加を得た。

4. 研究成果

(1) 森林法の比較検討

最近アフリカ各国で相次いで制定された新しい森林法に関する資料を集め、それらの比較検討をおこなった結果、森林の土地は国有地とされているものの、森林資源に対する地域住民の慣習的権利が次第に認知される傾向にあることがわかった。しかし現在でも、慣習的権利の確立には問題がある例が多く、カメルーンなど比較的初期に森林法の改訂が行われた国はもとより、コンゴ民主共和国等の最近になって改訂が行われた国でも、実際の権利の確立方法や、伐採、大規模農地開発等との競合状態の調整等に関する実施方法や法整備が遅れている状態であり、現行の森林法には問題が多いことが明らかになった。また、最近になって、国際援助機関や NGO 等の働きかけにより、森林居住民の慣習的利用に対する認知が深まり、森林法の見直しの動きが出ていることも明らかになった。

(2) NTFPs (非木材森林産物)の文化的、経済的価値とその変化

中央アフリカ、とくにカメルーン東部州などにおいて、住民の生計及び家計における森林産物の利用を調査し、それらのもつ文化的、経済的意義とその変化について明らかにした。カメルーンでは地域住民が食生活、とくに副食の9割以上を森林産物に依存していること、また、非木材森林産物は狩猟採集民の現金収入源としてもっとも重要であり、農耕民にとってもカカオに次ぐ重要性を有していることなどを明らかにした。また、最近では伐採事業などがもたらした現金経済化や消費経済の浸透、さらには伐採に替わる森林利用として注目されていることなどから、獣肉その他の非木材森林産物の商品化が急速に進んでおり、資源の持続性が問題となっていることを指摘した。長い間の内戦でインフラが荒廃したコンゴ民主共和国では、稀少な換金産物として野生獣肉に対する需要が高まり、すでに資源の枯渇が進んでいることが判明した。

(3) 森林利用の可視化

GPSを利用した森林利用調査を先行している連合王国の研究者と連絡をとり、実施のためのノウハウなどについて議論したのち、現地においてまず、小規模の participatory mapping (参加型の地図製作)のためのデータ収集を試み、実施にあたっての問題点を把握・検討した。

森林利用の地図化については、カメルーン東部州の住民と協力して、GPS、簡易測量具による土地・資源利用の地図化を進め、集落周辺の耕地及び休耕地と、そこに生育する有用樹種の調査をおこなった。土地利用調査からは、年間開墾面積の140倍に相当する土地が利用可能であり、現行の農業水準ならば、十分に持続可能であることが判明した。また、資源とその採取場所、活動域などをGPSにより記録し、地図化のための資料を収集した。さらに、野生ヤマイモの分布地域をGPSで正確に把握し、ヤマイモの採取・利用がその分布に影響を及ぼしていることを示し、森林資源に対する慣習的権利の基盤に生態学的な根拠があることを指摘した。

(4) 慣習的利用をめぐる社会関係、民族関係

森林資源の利用にかかわる地域の利害関係を明らかにした。まず、森林の慣習的利用の担い手である住民の基礎調査を実施し、調査地の人口構成、民族構成、親族関係等の社会関係を明らかにした。つぎに、同所的に生活する狩猟採集民や焼畑農耕民など、生業様式や経済力、政治的地位等が異なる集団間の森林利用をめぐる競争、相互依存、優劣関係などについて把握し、アフリカの他地域の例を参考にしながら、両者の共存を可能にする体制を検討した。

カメルーンでは、国際NGO等の援助により、住民による森林の共同管理区(コミュニティ・フォレスト)が認められているが、その利用と管理、及びそれらの問題点に関する調査をおこなった。調査地域ではこのほかにも、最近になって各種の住民組織が設立されているが、それらの種類と構成、役割と活動内容、そしてそれらの組織が抱える既得権益等の問題等を明らかにした。

(5) 以上のような調査研究活動の成果を国内外の学会、研究会等において発表した。とくに、日本アフリカ学会(2013年5月、東京)、International Conference on Congo Basin Hunter-gatherers (September 2011, Montpellier, France)、11th Conference of International Society of Ethnobiology (May 2012, Montpellier, France)、10th Conference on Hunting and Gathering Societies (June 2013, Liverpool, UK)、Conference on African Forests and Institution, (September 2013, Paris)などにおいて発表したほか、2012年11月末及び2014年2月中旬には、カメルーンにおいて、現地研究者や住民代表、調査補助者を招いてワークショップを開催し、成果の発信とフィードバックに努めた。また、これらの成果をまとめた報告書を英文学術誌(African Study Monographs)の特集号として出版した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計19件)

Ichikawa, M., (in press) How to Integrate a Global Issue of Conservation with Local Interests. *African Study Monographs*, suppl. issu. (査読有)。

Toda, M. (研究協力者) (in press). Peoples and Social Organizations in Gribé, Southeastern Cameroon. *African Study Monographs*, suppl. issu. (査読有)。

Kimura, D. 2014 Constructing AFlora: A database of plant use in Africa." *African Study Monographs*, 34(3): 143-159 (査読有)。

SATO, H., T. Yamauchi, K. Hayashi and D. Kimura, 2014 Bio-social Adaptations of the Baka Hunter-gatherers in African Rainforest. *African Study Monographs*, suppl. issu. 47:1-163 (査読有)。

Yasuoka, H., 2013 Dense Wild Yam Patches Established by Hunter-Gatherer Camps: Beyond the Wild Yam Question, Toward the Historical Ecology of Rainforests. *Human Ecology*,

41:465-475 (査読有)。
市川光雄, 2012 「熱帯雨林保全と先住民問題 森の民の生活から」『椋山人間学研究』第7巻: 93-106。
Ichikawa, M., D. Kimura & H. Yasuoka (eds.), 2012 Land Use, Livelihood, and Changing Relationships Between Man and Forests in Central Africa", *African Study Monographs*, suppl. issue. 43: 1-178 (査読有)。
Ichikawa, M., 2012 Central African Forests as Hunter-gatherers' Living Environment: An Approach to Historical Ecology. *African Study Monographs*, suppl. issue. 43: 3-14 (査読有)。
Kimura, D., H. Yasuoka and T. Furuichi 2012 Diachronic change of protein acquisition among the Bongando in the Democratic Republic of the Congo. *African Study Monographs*, suppl. issue. 43: 161-178 (査読有)。
Yasuoka, H., 2012 Fledging agriculturalists? Rethinking the adoption of cultivation by the Baka hunter-gatherers. *African Study Monographs*, suppl. issue. 43: 85-114 (査読有)。
Yasuoka, H., Kimura, D., Hashimoto, H. & T. Furuichi 2012 Quantitative assessment of livelihoods around Great ape reserves: Cases in Luo Scientific Reserve, DR Congo, and Kalinzu Forest Reserve, Uganda. *African Study Monographs*, suppl. issue. 43: 137-159 (査読有)。
丸山淳子, 2012 「統治の場」から「生きる場」へ ポツワナにおけるサンと「先住民」運動』『文化人類学』p『文化人類学』77(2): 250-272 (査読有)。
Ichikawa, M., 2011 Anthropologie Japonaises en Afrique (EHESS-France) *Techniques & Culture* 57:121-141 (査読有)。
市川光雄, 2010 「熱帯雨林保護と先住民問題」『総合人間学』第4巻:132-135。
市川光雄, 2010 「人間の生活環境としての熱帯雨林 歴史生態学的アプローチ」『文化人類学(旧民族学研究)』74(4): 567-585(査読有)。
木村大治 2010 「複雑さとは何か」『霊長類研究』26-2: 179-183 (査読有)。
Lingomo B. and D. Kimura, 2009 Taboo of eating bonobo among the Bongando people in the Wamba region, Democratic Republic of Congo" *African Study Monographs*, 30(4):209-225 (査読有)。
Yasuoka, H., 2009 Concentrated distribution of wild yam patches: Historical ecology and the subsistence of African rainforest hunter

-gatherers. *Human Ecology*, 37(5): 577-587 (査読有)。
Yasuoka, H. 2009 The variety of forest vegetation in southeastern Cameroon, with special reference to the availability of wild yams for the forest hunter-gatherers. *African Study Monographs*, 30(2): 89-119 (査読有)。

[学会発表](計 13 件)

Ichikawa, M., 2013 *Settlement Shifts and Past Memory among central African Hunter-gatherers*. 10th International Conference of Hunting and Gathering Societies(CHaGS10), 24-28 June, 2013, Liverpool, UK.
Ichikawa, M., 2013 *Dilemmas Faced by Contemporary Hunter-gatherers in Central Africa. Plenary Session: Taking Stocks*, 10th International Conference of Hunting and Gathering Societies (CHaGS10), 24-28 June, 2013, Liverpool, UK(招待講演)。
Kimura, D., 2013 *Rethinking Egalitarianism*. Xth International Conference of Hunting and Gathering Societies(CHaGS10), 24-28 June, 2013, Liverpool, UK.
Hirai, M. (研究協力者) & M. Ichikawa, 2013 *Livelihood, Land Use and Wild Fruit Ecology in the South Eastern Cameroon Forest*. International Conference on "Central African Forests and Institution (CAFI)", 20-21 September, 2013, Paris, France(招待講演)
平井将公(研究協力者)・市川光雄, 2013 「アフリカ熱帯雨林の保全と利用の両立にむけた住民との共同調査」第50回日本アフリカ学会, 5月25-26日, 東京大学。
Ichikawa, M., 2012 *Forest Reform and Indigenous People in DRC: from the experience with the World Bank Inspection Panel*. World Bank/IMF Annual Meeting, Oct. 13, Tokyo International Forum(招待講演)。
Kimura, D., 2012 *Historical Changes of Forest Use and Land Rights: The Case of the Wamba Region, DR-Congo*. 11th Congress of the International Society of Ethnobiology, 22-25 May, Montpellier, France。
丸山淳子, 2011 「南部アフリカにおけるサンの先住民運動に関する比較研究」日本アフリカ学会, 5月21-22日, 弘前大学。
市川光雄, 2011 「森に生きる 熱帯雨林保護と先住民の生活」日本アフリカ学会, 5月21日, 弘前大学(招待講演)。

Ichikawa, M., 2010 *Forty Years of Japanese Research on Central African Hunter-gatherers: Findings in Ethnobotany and Historical Ecology and Their Implications for Contemporary Issues*. Special Seminar at L'Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales (EHES), June 16 Marseille, France (招待講演).

Ichikawa, M., 2010 *Historical Ecology and Contemporary Problems in the Congo Basin Hunter-gatherer Studies*. International Conference on Congo Basin Hunter-gatherers. 25-28 September, 2010, Montpellier, France.

Maruyama, J., 2010 *Return to the Bush: Livelihood of "Indigenous People" in Botswana and Australia*. International Workshop on "Negotiation of indigenous identities: Comparative study on Indigenous people among national and international environment". December 4, National Museum of Ethnology, Osaka.

Kimura, D., 2010 *Everyday Conversation of the Baka Pygmies*. International Conference on Congo Basin Hunter-gatherers. 25-28 September, 2010, Montpellier, France.

〔図書〕(計 26 件)

Ichikawa, M., 2014 *Forest Conservation and Indigenous Peoples in the Congo Basin: New Trends toward Reconciliation between Global Issues and Local Interest*. ed. Hewlett, B., *Hunter-Gatherers of the Congo Basin: Culture, History and Biology of African Pygmies*, Transaction Publishers, Rutgers-The State University, New Jersey: 422-442.

木村大治, 森田真生, 亀井伸孝 2013 「数学における身体性」『身体化の人類学 - 認知・記憶・言語・他者』(菅原和孝編) 世界思想社: 42-75.

丸山淳子 2013 「ボツワナの狩猟採集民は "先住民" になることで何を得たか」内藤直樹編 『包摂と排除の人類学』昭和堂: 57-75.

木村大治, リンゴモ-ボンゴリ 2012 『ロンガンド語彙集 Baoyi'a Lohoso'a Longando』京都大学大学院 AA 地域研究研究科: 1-109.

安岡宏和, 2012 純粹贈与されるゾウバカ・ピグミーのゾウ肉食の禁止とシェアリングをめぐる考察. 松井健・野林厚志・名和克郎 (編) 『生業と生産の社会的布置』岩田書院: 301-341.

安岡宏和, 2012 「森の民の生態人類学

身体的実感のフィールドワークを通して」. 小島聡・西城戸誠 (編), 『フィールドフィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして』, ミネルバ書房: 140-160.

丸山淳子, 2012 「エランドの肉も、ウシのミルクも: 狩猟採集民サンの多様な生計維持活動」松井健・野林厚志・名和克郎 (編) 『生産と生業の社会的布置』岩田書院: 57-88 (査読有).

丸山淳子, 2012 「ケータイが切りひらく狩猟採集社会のあらたな展開: ボツワナにおける遠隔地へのケータイ普及がもたらしたもの」羽淵・内藤・岩佐 (編) 『メディアのフィールドワーク: アフリカとケータイの未来』北樹出版: 174-189.

Ichikawa, M., S. Hattori, H. Yasuoka, 2011 "Environmental Knowledge among Central African Hunter-gatherers: Types of Knowledge and Intra-cultural Variations," Whallon R., W. Lovis and R. Hitchcock eds., *Information and its Role in Hunter-Gatherer Bands*, Cotsen Institute of Archaeology Publications: 117-132.

木村大治, 2011 『括弧の意味論』NTT出版: 1-248.

安岡宏和, 2011 『バカ・ピグミーの生態人類学 アフリカ熱帯雨林の狩猟採集生活の再検討』松香堂書店: 1-224 (査読有).

市川光雄, 2010 「アフリカ熱帯雨林の歴史生態学に向けて」木村大治・北西功一 (編) 『森棲みの生態誌』京都大学出版会: 3-16.

市川光雄, 2010 「植生からみる生態史: コンゴ、イトウリの森」木村大治・北西功一 (編) 『森棲みの生態誌』京都大学出版会: 101-118.

木村大治, 北西功一 (編著) 2010 『森棲みの生態誌 - アフリカ熱帯林の人・自然・歴史 I』京都大学学術出版会: 1-425.

木村大治, 北西功一 (編著) 2010 『森棲みの社会誌 - アフリカ熱帯林の人・自然・歴史 II』京都大学学術出版会: 1-388.

木村大治, 安岡宏和, 古市剛史 2010 「コンゴ民主共和国・ワンバにおけるタンパク質獲得活動の変遷」木村大治・北西功一 (編) 『森棲みの生態誌 - アフリカ熱帯林の人・自然・歴史 I』京都大学学術出版会: 333-351.

木村大治, 2010 「インタラクションを捉えるということ」岡田浩樹, 定延利之編 『可能性としての文化情報リテラシー』ひつじ書房: 97-110.

木村大治, 中村美知夫, 高梨克也 (編著) 2010 『インタラクションの境界と

接続 - サル・人・会話研究から』昭和堂:1-445.

Yasuoka, H., 2010 The wild yam question: Evidence from Baka foraging in the northwest Congo Basin. In Bates, D.S., & Tucker, J. (eds.), *Human Ecology: Contemporary Research and Practice*. Springer: 143 -154.

安岡宏和、2010 「ワイルドヤム・クエスチョンから歴史生態学へ 中部アフリカ狩猟採集民の生態人類学の展開」. 木村大治・北西功一（編）『森棲みの生態誌』, 京都大学学術出版会: 17-40.

⑳ 安岡宏和、2010 「バカ・ピグミーの生業の変容 農耕化か?多様化か?」 木村大治・北西功一（編）『森棲みの生態誌』, 京都大学学術出版会: 141-163.

㉑ 安岡宏和、2010 「バカ・ピグミーの狩猟実践 罾猟の普及とブッシュミート交易の拡大のなかで」木村大治・北西功一（編）『森棲みの生態誌』, 京都大学学術出版会: 303-331.

㉒ 丸山淳子、2010 『変化を生きぬくブッシュマン 開発政策と先住民運動のはざままで』世界思想社:1-350.

㉓ Ichikawa, M., 2009 Forests and Indigenous People in Post-conflict Democratic Republic of Congo. In : Kato, G. A. Uyar (eds.), *Question of Poverty and Development in Conflict and Conflict Resolution, Afrasian Studies*, Ryukoku University: 211-226.

㉔ 丸山淳子、2009 「開発政策によるサンの集住化と脱狩猟採集民:経済格差と食物分配に注目して」岸上伸啓編 『開発と先住民』明石書店: 232-253.

㉕ 丸山淳子、2009 「開発政策と先住民運動のはざままで:ボツワナの再定住地におけるサンの居住形態の再編」窪田幸子・野林厚志編 『「先住民」とは誰か?』世界思想社: 224-247.

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

市川 光雄 (ICHIKAWA, Mitsuo)
財団法人日本モンキーセンター・所長)
研究者番号: 50115789

(2)研究分担者

木村 大治 (KIMURA, Daiji)
京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授
研究者番号: 40242573

丸山 淳子 (MARUYAMA, Junko)
津田塾大学・国際関係学部・講師

研究者番号: 00444472

(平成 21-22 年度研究分担者 連携研究者)

(3)連携研究者

北西 功一 (KITANISHI, Koichi)
山口大学・教育学部・教授
研究者番号: 8030 4468

鈴木 滋 (SUZUKI, Shigeru)
龍谷大学・国際文化学部・教授
研究者番号: 80324606

安岡 宏和 (YASUOKA, Hirokazu)
法政大学・人間環境学部・准教授
研究者番号: 20449292

林 耕次 (HAYASHI, Koji)
京都大学アフリカ地域研究資料センター・研究員
研究者番号: 70469625

(4)研究協力者

服部 志帆 (HATTORI, Shiho)
天理大学・文学部・准教授
研究者番号: 50512232

平井 将公 (HIRAI, Masaaki)
京都大学・アフリカ地域研究資料センター・研究員
研究者番号: 80570845

戸田 美佳子 (TODA, Mikako)
日本学術振興会・特別研究員
研究者番号: 20722466

(5)海外共同研究者

NGIMA Mawong, Godefroy
ヤウンデ第一大学・人文社会学部・准教授

BOBO Kadiri, Serge
チャン大学・農学部・上級講師

LEWIS, Jerome
ロンドン大学・人類学科・講師

DOUNIAS, Edmond
国立開発研究庁(機能・進化生態学研究センター)・主任研究員